

CSVファイルデータコレクタ サンプル仕様説明書

Edgecrossコンソーシアム

(1) CSVファイルデータコレクタサンプル(ECP-TL1-W-CFDS)とは

Edgecross基本ソフトウェアに同梱されているCSVファイルデータコレクタを理解するためのサンプルです。
CSVファイルデータコレクタは、“収集データ定義ファイル”と“監視対象ファイル”が必要になります。
CSVファイルデータコレクタサンプルは、“収集データ定義ファイル”と“監視対象ファイル”のサンプルを提供しています。















(2) CSVファイルデータコレクタサンプルの内容物

CSVファイルデータコレクタサンプルは、以下の内容物を提供しています。フォルダ構成については、[次ページ](#)を参照してください。

内容物	詳細
監視対象ファイルのサンプル(CSV、TXT)	監視対象ファイルを理解するためのサンプルである。以下項目で説明している。 ・ 3-1.サンプルデータ(ファイル形式：CSV)の監視対象ファイルについて ・ 4-1.サンプルデータ(ファイル形式：TXT)の監視対象ファイルについて
収集データ定義ファイルのサンプル(CSV、TXT)	収集データ定義ファイルを理解するためのサンプルである。以下項目で説明している。 ・ 3-2.サンプルデータ(ファイル形式：CSV)の収集データ定義ファイルについて ・ 4-2.サンプルデータ(ファイル形式：TXT)の収集データ定義ファイルについて
『Edgecross基本ソフトウェア利用シーン毎の設定手順』を想定したCSVファイル	以下のドキュメントのユースケースで使用しているCSVファイル(収集データ定義ファイル、監視対象ファイル)である。 ・『Edgecross基本ソフトウェア利用シーン毎の設定手順-マネジメントシェル編-(ECD-TE8-0002)』 > Case.1-3 CSVファイル内データの現在値を確認してみよう ※ 監視対象ファイルのみ提供 ・『Edgecross基本ソフトウェア利用シーン毎の設定手順-リアルタイムフローマネージャ編-(ECD-TE8-0001)』 > Case.1-3 CSVファイルからデータを収集してみよう
CSVファイルデータコレクタサンプル仕様説明書	収集データ定義ファイルのサンプル(CSV、TXT)、監視対象ファイルのサンプル(CSV、TXT)の説明書である。 サンプルを使用して、収集データ定義ファイルと監視対象ファイルについて説明している。

2. サンプルのフォルダ構成

CSVファイルデータコレクタサンプル(ECP-TL1-W-CFDS)のフォルダ構成は以下のとおりです。

 ECP-TL1-W-CFDS	CSVファイルデータコレクタサンプル本体	
└─  SampleData	CSVファイルデータコレクタのサンプルデータを格納しているフォルダ	
└─  CSVFile_Sample	本書で説明する サンプルデータ(ファイル形式 : CSV) を格納しているフォルダ	参照先 : 3.
└─  DefinitionFile	本書で説明するサンプルデータの 収集データ定義ファイル を格納しているフォルダ	参照先 : 3-2.
└─  MonitoringTargetFile	本書で説明するサンプルデータの 監視対象データ を格納しているフォルダ	参照先 : 3-1.
└─  TextFile_Sample	本書で説明する サンプルデータ(ファイル形式 : TXT) を格納しているフォルダ	参照先 : 4.
└─  DefinitionFile	本書で説明するサンプルデータの 収集データ定義ファイル を格納しているフォルダ	参照先 : 4-2.
└─  MonitoringTargetFile	本書で説明するサンプルデータの 監視対象データ を格納しているフォルダ	参照先 : 4-1.
└─  CSVFile_MS	『Edgecross基本ソフトウェア利用シーン毎の設定手順-マネジメントシェル編-(ECD-TE8-0002)』の「Case.1-3 CSVファイル内データの現在値を確認してみよう」を想定した サンプルデータ を格納しているフォルダ	
└─  MonitoringTargetFile	「Case.1-3 CSVファイル内データの現在値を確認してみよう」で使用する 監視対象ファイル を格納しているフォルダ	
└─  CSVFile_RFM	『Edgecross基本ソフトウェア利用シーン毎の設定手順-リアルタイムフローマネージャ編-(ECD-TE8-0001)』の「Case.1-3 CSVファイルからデータを収集してみよう」を想定した サンプルデータ を格納しているフォルダ	
└─  DefinitionFile	「Case.1-3 CSVファイルからデータを収集してみよう」で使用する 収集データ定義ファイル を格納しているフォルダ	
└─  MonitoringTargetFile	「Case.1-3 CSVファイルからデータを収集してみよう」で使用する 監視対象ファイル を格納しているフォルダ	
└─  Manual	本書を格納しているフォルダ	

3. サンプルデータ(ファイル形式 : CSV)について

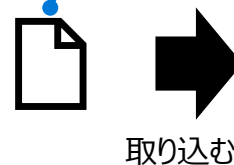
本サンプルでは、下図(①)のCSVファイルを収集対象としてリアルタイムフローマネージャで収集する方法を説明します。

- ① CSVファイルデータコレクタで収集するデータを作成します。詳細は[3-1. サンプルデータ\(ファイル形式 : CSV\)の監視対象ファイルについて](#)を参照してください。
- ② リアルタイムフローマネージャに収集対象のデータ名とデータ型を登録するために、収集データ定義ファイルを作成します。
詳細は[3-2. サンプルデータ\(ファイル形式 : CSV\)の収集データ定義ファイルについて](#)を参照してください。
- ③ ②で作成した収集データ定義ファイルをリアルタイムフローマネージャに取り込むと、リアルタイムフローマネージャ上に収集対象のデータ名とデータ型が設定されます。
- ④ 監視フォルダに監視対象ファイルを格納すると、リアルタイムフローマネージャは監視対象ファイルからデータを読み出します。

① 収集対象のCSVファイル(監視対象ファイル)

```
1 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17
2 TIME, AdmissionDecision, ProductCount, Weight, LotNumber
3 2022/03/22 10:00:00.100, 1, 101, 170.5, ECC001
4 2022/03/22 10:00:05.200, 0, 102, 172.9, ECC001
5 2022/03/22 10:00:10.300, 1, 103, 171.8, ECC001
6 2022/03/22 10:00:15.400, 0, 104, 170.0, ECC001
7 2022/03/22 10:00:20.500, 1, 105, 176.7, ECC002
8 2022/03/22 10:00:25.600, 0, 106, 173.3, ECC002
9 2022/03/22 10:00:30.700, 1, 107, 178.2, ECC002
10 2022/03/22 10:00:35.800, 0, 108, 170.5, ECC002
11 2022/03/22 10:00:40.900, 1, 109, 170.0, ECC003
12 [EOF]
```

③ ②で作成した収集データ定義ファイル

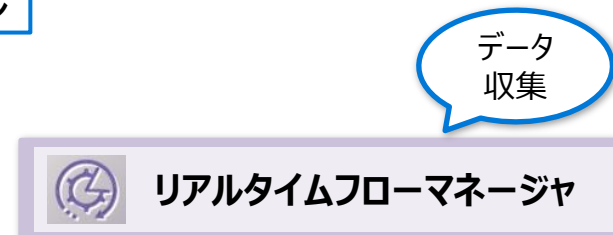
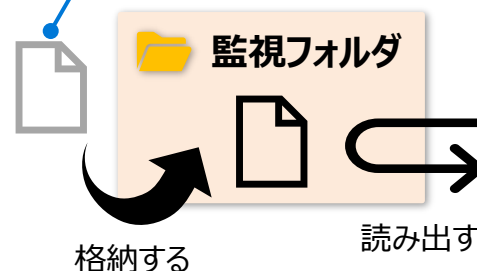


リアルタイムフローマネージャ		
データ列No.	データ名	データ型
1	AdmissionDecision	BOOL
2	ProductCount	INT
3	Weight	REAL
4	LotNumber	STRING

② 収集対象のCSVファイル用の収集データ定義ファイル

```
1 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
2 DATETIME[YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss], BOOL[1;0], INT[DEC.0], REAL[DEC.8], STRING[32]
3 TIME, AdmissionDecision, ProductCount, Weight, LotNumber
4 [EOF]
```

④ ①で作成した監視対象ファイル



3-1. サンプルデータ(ファイル形式 : CSV)の監視対象ファイルについて

サンプルデータ(ファイル形式 : CSV)では、下図のような収集対象のCSVファイル(監視対象ファイル(LOG_0001.csv))を用意しています。



監視対象ファイル(LOG_0001.csv)

TIME,AdmissionDecision,ProductCount,Weight,LotNumber ...**(1)**

2022/03/22 10:00:00.100	1,101,170.5,ECC001
2022/03/22 10:00:05.200	0,102,172.9,ECC001
2022/03/22 10:00:10.300	1,103,171.8,ECC001
2022/03/22 10:00:15.400	0,104,170.0,ECC001
2022/03/22 10:00:20.500	1,105,176.7,ECC002
2022/03/22 10:00:25.600	0,106,173.3,ECC002
2022/03/22 10:00:30.700	1,107,178.2,ECC002
2022/03/22 10:00:35.800	0,108,170.5,ECC002
2022/03/22 10:00:40.900	1,109,170.0,ECC003

...**(2)**

(2)-1

(2)-2

(1) ヘッダ情報

収集データ定義ファイルで指定したデータ開始番号の直前の行までをヘッダ情報として扱います。

ヘッダ情報の有無と設定内容は任意です。

本サンプルでは1行目がヘッダ情報(データ名)、2行目以降がデータ行となります。

(2) 列数

監視対象ファイルは最大257列設定可能です。列の内訳は以下のとおりです。

(2)-1 日時列 : 1列

(2)-2 データ列 : 256列

(2)-1 日時列

日時列は、監視対象ファイルの1列目に必要となります。

日時列は、“収集データのタイムスタンプ”です。

(2)-2 データ列

データ列は、監視対象ファイルの2列目以降です。

データ列は、“収集データの値”です。

本サンプルでは、BOOL、INT、REAL、STRINGのデータ型を扱います。



注意事項

- 改行コードはCRLF(0x0D, 0x0A)です。必ず**すべての行で終端に改行コードを入れてください**。ただし、ファイルの終端の場合は除きます。(改行コードがCRのみ、LFのみ、空白 + CRLF、および水平TAB + CRLFの場合でも正常に動作します。)
- CSVファイルの文字コードは**シフトJIS**または**UTF-8(BOM付)**をしてしてください。
- その他、収集データ定義ファイルのフォーマット仕様については、『Edgecross基本ソフトウェア Windows版 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

3-2. サンプルデータ(ファイル形式 : CSV)の収集データ定義ファイルについて

3-1. の監視対象ファイルを収集するために、本サンプルでは下図のような収集データ定義ファイル(Def.csv)を用意しています。



収集データ定義ファイル(Def.csv)

※ファイル形式がCSVの場合、カンマ(,)区切りとなります。

```
„2,3,2…(1)  
DATETIME[YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss],BOOL[1;0],INT[DEC.0],REAL[DEC.8],STRING[32] …(2)  
TIME,AdmissionDecision,ProductCount,Weight,LotNumber …(3)
```



監視対象ファイル(LOG_0001.csv)

```
TIME,AdmissionDecision,ProductCount,Weight,LotNumber
```

```
2022/03/22 10:00:00.100,1,101,170.5,ECC001  
2022/03/22 10:00:05.200,0,102,172.9,ECC001  
2022/03/22 10:00:10.300,1,103,171.8,ECC001  
2022/03/22 10:00:15.400,0,104,170.0,ECC001  
2022/03/22 10:00:20.500,1,105,176.7,ECC002  
2022/03/22 10:00:25.600,0,106,173.3,ECC002  
2022/03/22 10:00:30.700,1,107,178.2,ECC002  
2022/03/22 10:00:35.800,0,108,170.5,ECC002  
2022/03/22 10:00:40.900,1,109,170.0,ECC003
```

(1) ファイル情報行

ファイルの全体情報として、**ファイル種別**、**ファイルバージョン**、および**行の位置情報**の情報を含みます。
ファイル情報行は収集データ定義ファイルの**1行目**になります。サンプルデータの『„2,3,2』を『①,②,③,④,⑤』と置き換えて説明します。

参照 番号	収集データ定義ファイルの仕様		本サンプルの内容
	項目	仕様	
①	ファイル種別	任意の文字列。(空欄可、省略不可)	ファイル種別を指定しないため 空欄 。
②	ファイルバージョン	監視対象ファイル出力元の任意の文字列。(空欄可、省略不可)	ファイルバージョンを指定しないため 空欄 。
③	データ型情報行番号	収集データ定義ファイル内でデータ型情報行が記載されている行の番号。	本サンプルの収集データ定義ファイルでは、2行目(2)に記載しているため、“ 2 ”と指定。
④	データ名情報行番号	収集データ定義ファイル内でデータ名情報が記載されている行の番号。	本サンプルの収集データ定義ファイルでは、3行目(3)に記載しているため“ 3 ”と指定。
⑤	データ開始行番号	収集対象の監視対象ファイルのデータ行の開始位置。(最大65535まで)	本サンプルの監視対象ファイルでは、2行目以降をデータ行(★)としているため“ 2 ”を指定。



注意事項

- 改行コードはCRLF(0x0D, 0x0A)です。必ず**すべての行で終端に改行コードを入れてください**。(改行コードがCRのみ、またはLFのみの場合でも正常に動作します。)
- CSVファイルの文字コードは**シフトJIS**または**UTF-8(BOM付)**をしてしてください。
- その他、収集データ定義ファイルのフォーマット仕様については、『Edgecross基本ソフトウェア Windows版 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

3-2. サンプルデータ(ファイル形式 : CSV)の収集データ定義ファイルについて

3-1. の監視対象ファイルを収集するために、本サンプルでは下図のような収集データ定義ファイル(Def.csv)を用意しています。



収集データ定義ファイル(Def.csv)

※ファイル形式がCSVの場合、カンマ(,)区切りとなります。

„2,3,2…(1)

DATETIME[YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss],BOOL[1;0],INT[DEC.0],REAL[DEC.8],STRING[32] …(2)

TIME,AdmissionDecision,ProductCount,Weight,LotNumber …(3)



監視対象ファイル(LOG_0001.csv)

TIME,AdmissionDecision,ProductCount,Weight,LotNumber

2022/03/22 10:00:00.100	1	101	170.5	ECC001
2022/03/22 10:00:05.200	0	102	172.9	ECC001
2022/03/22 10:00:10.300	1	103	171.8	ECC001
2022/03/22 10:00:15.400	0	104	170.0	ECC001
2022/03/22 10:00:20.500	1	105	176.7	ECC002
2022/03/22 10:00:25.600	0	106	173.3	ECC002
2022/03/22 10:00:30.700	1	107	178.2	ECC002
2022/03/22 10:00:35.800	0	108	170.5	ECC002
2022/03/22 10:00:40.900	1	109	170.0	ECC003

①

②

③

④

⑤

- データ型情報行の“データ型文字列”、“付加情報文字列”、およびその他の仕様や注意事項については、『Edgecross基本ソフトウェア Windows版 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

(2) データ型情報行

各データのデータ型情報です。

データ型情報行は「データ型文字列 + 付加情報文字列」で構成されます。

参照番号	本サンプルのデータ型情報行の内容	説明
①	DATETIME[YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss]	監視対象ファイルの日時フォーマットにあわせて、データ型文字列は“ DATETIME ”とし、付加情報文字列は“ [YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss] ”と定義。
②	BOOL[1;0]	ビットのデータ列であるため、データ型文字列は“ BOOL ”とし、付加情報文字列は“ [1;0] ”と定義。
③	INT[DEC.0]	符号付き16ビット整数のデータ列であるため、データ型文字列は“ INT ”とし、付加情報文字列で“ [DEC.0] ”と定義。
④	REAL[DEC.8]	32ビット整数のデータ列であるため、データ型文字列は“ REAL ”とし、付加情報文字列で“ [DEC.8] ”と定義。
⑤	STRING[32]	文字列(ASCII)のデータ列であるため、データ型文字列は“ STRING ”とし、付加情報文字列で“ [32] ”と定義。

(3) データ名情報行

各列のデータ名情報です。リアルタイムフローデザイナの各列のデータ名として使用します。

監視対象ファイル内のデータが“5つ”であるため、“5つ”のデータ名を指定しています。

※監視対象ファイルは1行目にデータ名の行がありますが、リアルタイムフローデザイナでは使用しません。

4. サンプルデータ(ファイル形式 : TXT)について

本サンプルでは、下図(①)のTXTファイルを収集対象としてリアルタイムフローマネージャで収集する方法を説明します。

- ① CSVファイルデータコレクタで収集するデータを作成します。詳細は[4-1. サンプルデータ\(ファイル形式 : TXT\)の監視対象ファイルについて](#)を参照してください。
- ② リアルタイムフローマネージャに収集対象のデータ名とデータ型を登録するために、収集データ定義ファイルを作成します。
詳細は [4-2. サンプルデータ\(ファイル形式 : TXT\)の収集データ定義ファイルについて](#) を参照してください。
- ③ ②で作成した収集データ定義ファイルをリアルタイムフローマネージャに取り込むと、リアルタイムフローマネージャ上に収集対象のデータ名とデータ型が設定されます。
- ④ 監視フォルダに監視対象ファイルを格納すると、リアルタイムフローマネージャは監視対象ファイルからデータを読み出します。

① 収集対象のTXTファイル(監視対象ファイル)

```
1 TIME AdmissionDecision ProductCount Weight LotName
2 2022/03/22 10:00:00.100^1^ 101^170.5^ ECC001^
3 2022/03/22 10:00:05.200^0^ 102^172.9^ ECC001^
4 2022/03/22 10:00:10.300^1^ 103^171.8^ ECC001^
5 2022/03/22 10:00:15.400^0^ 104^170.0^ ECC001^
6 2022/03/22 10:00:20.500^1^ 105^176.7^ ECC002^
7 2022/03/22 10:00:25.600^0^ 106^173.3^ ECC002^
8 2022/03/22 10:00:30.700^1^ 107^178.2^ ECC002^
9 2022/03/22 10:00:35.800^0^ 108^170.5^ ECC002^
10 2022/03/22 10:00:40.900^1^ 109^170.0^ ECC003^
[EOF]
```

③ ②で作成した収集データ定義ファイル



取り込む

リアルタイムフローマネージャ		
データ列No.	データ名	データ型
1	AdmissionDecision	BOOL
2	ProductCount	INT
3	Weight	REAL
4	LotNumber	STRING

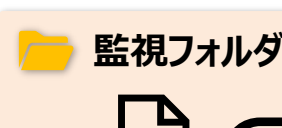
② 収集対象のTXTファイル用の収集データ定義ファイル

```
1 2 3 2
2 DATETIME[YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss]^ BOOL[1;0]^ INT[DEC.0]^ REAL[DEC.8]^ STRING[32]^
3 TIME^ AdmissionDecision^ ProductCount^ Weight^ LotName^
[EOF]
```

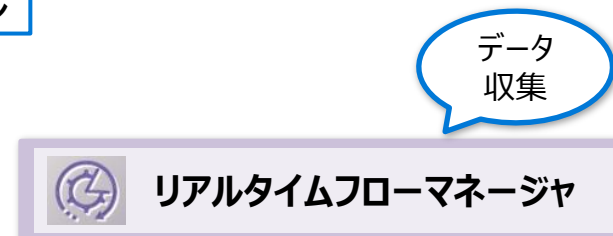
④ ①で作成した監視対象ファイル



格納する



読み出す



4-1. サンプルデータ(ファイル形式 : TXT)の監視対象ファイルについて

サンプルデータ(ファイル形式 : TXT)では、下図のような収集対象のTXTファイル(監視対象ファイル(LOG_0001.txt))を用意しています。



監視対象ファイル(LOG_0001.txt)

TIME(¥t)AdmissionDecision(¥t)ProductCount(¥t)Weight(¥t)LotNumber ...**(1)**

2022/03/22 10:00:00.100	¥t	1(¥t)	101(¥t)	170.5(¥t)	ECC001
2022/03/22 10:00:05.200	¥t	0(¥t)	102(¥t)	172.9(¥t)	ECC001
2022/03/22 10:00:10.300	¥t	1(¥t)	103(¥t)	171.8(¥t)	ECC001
2022/03/22 10:00:15.400	¥t	0(¥t)	104(¥t)	170.0(¥t)	ECC001
2022/03/22 10:00:20.500	¥t	1(¥t)	105(¥t)	176.7(¥t)	ECC002
2022/03/22 10:00:25.600	¥t	0(¥t)	106(¥t)	173.3(¥t)	ECC002
2022/03/22 10:00:30.700	¥t	1(¥t)	107(¥t)	178.2(¥t)	ECC002
2022/03/22 10:00:35.800	¥t	0(¥t)	108(¥t)	170.5(¥t)	ECC002
2022/03/22 10:00:40.900	¥t	1(¥t)	109(¥t)	170.0(¥t)	ECC003

(2)-1

(2)-2

...(2)

(1) ヘッダ情報

収集データ定義ファイルで指定したデータ開始番号の直前の行までをヘッダ情報として扱います。
ヘッダ情報の有無と設定内容は任意です。
本サンプルでは1行目がヘッダ情報(データ名)、2行目以降がデータ行となります。

(2) 列数

監視対象ファイルは最大257列設定可能です。列の内訳は以下のとおりです。

(2)-1 日時列 : 1列

(2)-2 データ列 : 256列

(2)-1 日時列

日時列は、監視対象ファイルの1列目に必要となります。
日時列は、“収集データのタイムスタンプ”です。

(2)-2 データ列

データ列は、監視対象ファイルの2列目以降です。
データ列は、“収集データの値”です。
本サンプルでは、BOOL、INT、REAL、STRINGのデータ型を扱います。



注意事項

- 改行コードはCRLF(0x0D, 0x0A)です。必ず**すべての行で終端に改行コードを入れてください**。ただし、ファイルの終端の場合は除きます。
(改行コードがCRのみ、LFのみ、空白 + CRLF、および水平TAB + CRLFの場合でも正常に動作します。)
- CSVファイルの文字コードは**UTF-8(BOM付)**または**UTF-16LE(BOM付)**をしてしてください。
- その他、収集データ定義ファイルのフォーマット仕様については、『Edgecross基本ソフトウェア Windows版 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

4-2. サンプルデータ(ファイル形式 : TXT)の収集データ定義ファイルについて

4-1. の監視対象ファイルを収集するために、本サンプルでは下図のような収集データ定義ファイル(Def.txt)を用意しています。



収集データ定義ファイル(Def.txt)

※ファイル形式がTXTの場合、タブ区切りとなります。
タブは制御文字(¥t)で記載されています。

(¥t)(¥t)2(¥t)3(¥t)2...**(1)**

DATETIME[YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss](¥t)BOOL[1;0](¥t)INT[DEC.0](¥t)REAL[DEC.8](¥t)STRING[32]...**(2)**

TIME(¥t)AdmissionDecision(¥t)ProductCount(¥t)Weight(¥t)LotNumber...**(3)**



監視対象ファイル(LOG_0001.txt)

TIME(¥t)AdmissionDecision(¥t)ProductCount(¥t)Weight(¥t)LotNumber

```
2022/03/22 10:00:00.100(¥t)1(¥t)101(¥t)170.5(¥t)ECC001
2022/03/22 10:00:05.200(¥t)0(¥t)102(¥t)172.9(¥t)ECC001
2022/03/22 10:00:10.300(¥t)1(¥t)103(¥t)171.8(¥t)ECC001
2022/03/22 10:00:15.400(¥t)0(¥t)104(¥t)170.0(¥t)ECC001
2022/03/22 10:00:20.500(¥t)1(¥t)105(¥t)176.7(¥t)ECC002
2022/03/22 10:00:25.600(¥t)0(¥t)106(¥t)173.3(¥t)ECC002
2022/03/22 10:00:30.700(¥t)1(¥t)107(¥t)178.2(¥t)ECC002
2022/03/22 10:00:35.800(¥t)0(¥t)108(¥t)170.5(¥t)ECC002
2022/03/22 10:00:40.900(¥t)1(¥t)109(¥t)170.0(¥t)ECC003
```



(1) ファイル情報行

ファイル全体情報として、**ファイル種別**、**ファイルバージョン**、および**行の位置情報**の情報を含まれます。
ファイル情報行は、収集データ定義ファイルの**1行目**に記載します。
サンプルデータの『(¥t)(¥t)2(¥t)3(¥t)2』を『①(¥t)②(¥t)③(¥t)④(¥t)⑤』と置き換えて説明します。

参照 番号	収集データ定義ファイルの仕様		本サンプルの内容
	項目	仕様	
①	ファイル種別	任意の文字列。(空欄可、省略不可)	ファイル種別を指定しないため 空欄 。
②	ファイルバージョン	監視対象ファイル出力元の任意の文字列。(空欄可、省略不可)	ファイルバージョンを指定しないため 空欄 。
③	データ型情報行番号	収集データ定義ファイル内でデータ型情報行が記載されている行の番号。	本サンプルの収集データ定義ファイルでは、2行目(2)に記載しているため、“ 2 ”と指定。
④	データ名情報行番号	収集データ定義ファイル内でデータ名情報が記載されている行の番号。	本サンプルの収集データ定義ファイルでは、3行目(3)に記載しているため“ 3 ”と指定。
⑤	データ開始行番号	収集対象の監視対象ファイルのデータ行の開始位置。(最大65535まで)	本サンプルの監視対象ファイルでは、2行目以降をデータ行(★)としているため“ 2 ”を指定。



注意事項

- 改行コードはCRLF(0x0D, 0x0A)です。必ず**すべての行で終端に改行コードを入れてください**。(改行コードがCRのみ、またはLFのみの場合でも正常に動作します。)
- CSVファイルの文字コードは**UTF-8(BOM付)**または**UTF-16LE(BOM付)**をしてしてください。
- その他、収集データ定義ファイルのフォーマット仕様については、『Edgecross基本ソフトウェア Windows版 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

4-2. サンプルデータ(ファイル形式: TXT)の収集データ定義ファイルについて

4-1. の監視対象ファイルを収集するために、本サンプルでは下図のような収集データ定義ファイル(Def.txt)を用意しています。



収集データ定義ファイル(Def.txt)

※ファイル形式がTXTの場合、タブ区切りとなります。
タブは制御文字(¥t)で記載されています。

(¥t)(¥t)2(¥t)3(¥t)2...**(1)**

DATETIME[YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss](¥t)BOOL[1;0](¥t)INT[DEC.0](¥t)REAL[DEC.8](¥t)STRING[32]...**(2)**

TIME(¥t)AdmissionDecision(¥t)ProductCount(¥t)Weight(¥t)LotNumber...**(3)**



監視対象ファイル(LOG_0001.txt)

TIME(¥t)AdmissionDecision(¥t)ProductCount(¥t)Weight(¥t)LotNumber

```
2022/03/22 10:00:00.100(¥t)1(¥t)101(¥t)170.5(¥t)ECC001
2022/03/22 10:00:05.200(¥t)0(¥t)102(¥t)172.9(¥t)ECC001
2022/03/22 10:00:10.300(¥t)1(¥t)103(¥t)171.8(¥t)ECC001
2022/03/22 10:00:15.400(¥t)0(¥t)104(¥t)170.0(¥t)ECC001
2022/03/22 10:00:20.500(¥t)1(¥t)105(¥t)176.7(¥t)ECC002
2022/03/22 10:00:25.600(¥t)0(¥t)106(¥t)173.3(¥t)ECC002
2022/03/22 10:00:30.700(¥t)1(¥t)107(¥t)178.2(¥t)ECC002
2022/03/22 10:00:35.800(¥t)0(¥t)108(¥t)170.5(¥t)ECC002
2022/03/22 10:00:40.900(¥t)1(¥t)109(¥t)170.0(¥t)ECC003
```

①

②

③

④

⑤

- データ型情報行の“データ型文字列”、“付加情報文字列”、およびその他の仕様や注意事項については、『Edgecross基本ソフトウェア Windows版 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

(2) データ型情報行

各データのデータ型情報です。
データ型情報行は「**データ型文字列 + 付加情報文字列**」で構成されます。

参照番号	本サンプルのデータ型情報行の内容	説明
①	DATETIME[YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss]	監視対象ファイルの日時フォーマットにあわせて、データ型文字列は“ DATETIME ”とし、付加情報文字列は“ [YYYY/MM/DD hh:mm:ss.sss] ”と定義。
②	BOOL[1;0]	ビットのデータ列であるため、データ型文字列は“ BOOL ”とし、付加情報文字列は“ [1;0] ”と定義。
③	INT[DEC.0]	符号付き16ビット整数のデータ列であるため、データ型文字列は“ INT ”とし、付加情報文字列で“ [DEC.0] ”と定義。
④	REAL[DEC.8]	32ビット整数のデータ列であるため、データ型文字列は“ REAL ”とし、付加情報文字列で“ [DEC.8] ”と定義。
⑤	STRING[32]	文字列(ASCII)のデータ列であるため、データ型文字列は“ STRING ”とし、付加情報文字列で“ [32] ”と定義。

(3) データ名情報行

各列のデータ名情報です。リアルタイムフローデザイナーの各列のデータ名として使用します。
監視対象ファイル内のデータが“**5つ**”であるため、“**5つ**”のデータ名を指定しています。
※監視対象ファイルは1行目にデータ名の行がありますが、リアルタイムフローデザイナーでは使用しません。